

[PRESS RELEASE]

2006年9月1日

東京大学医学部附属病院 病院長

永井良三

東大病院・検診部および血管ドックの設置について

東京大学医学部附属病院（※以下、東大病院）では、中央診療棟2開設を機に、「検診部」を本年度内に設置する計画を進めております。

日本の疾病管理のあり方が、発病後の治療よりも、発病前の予防を主体としつつある現在、国民の健康志向は以前にも増して拡大しています。今回設置を予定している検診部では、近年のさまざまな検査ニーズに対応するため、血管ドックや総合的ながん検診を始めとした高度な検査オプションをご用意すると共に、各種検診や予防的介入のための研究を進めます。

従来の検診・人間ドック施設とは一線を画する、新しい検診部を立ち上げ、より質の高い予防医学・健康増進医学を推進し、皆様方の健康増進に寄与したいと考えております。

なお、今回のサービスは会員制ではなく、東大病院が独自に進めるもので、広く一般の方々が通常のドック費用で利用できるものです。

【背景】

日本人の疾病構造は、高血圧・心臓病・脳卒中・高脂血症・糖尿病・肥満などの生活習慣病に大きく変貌しており、疾病管理のあり方も治療主体から予防主体へと変換しつつあります。予防医学・健康増進医学の重要性が社会的にも注目され、国民の健康志向は以前にも増して拡大しています。

【構想概要】

東大病院は、このような時代の多くの方々の要望に応えることを目的として、中央診療棟2開設を機に、新しい部門として「検診部」を設置します。

◆血管ドック

生活習慣病が、動脈硬化などの血管病変を高率に引き起こし、循環器疾患・脳血管疾患のリスクを増大させることから、循環器疾患・脳血管疾患などの発症前早期診断を目的に、

検診部の事業の一つとして「血管ドック」を立ち上げます。「血管ドック」においては、生活習慣病やメタボリック症候群などのハイリスク群に対して、様々な最新の検査手段を総合的に駆使して、全身血管病変の検診を行います。

◆がん検診

がん検診をめぐる日本の現状も変容しつつあります。東大病院には様々な分野のがん診療に携わる多くの専門家がいますが、それらを統合・結集して、新たな総合的ながん検診も推進します。

◆予防疫学

学術面では、臨床データやゲノム情報をもとにしたデータベースの構築と予防疫学を推進します。これにより、科学的データに裏付けられた今後の生活習慣指導と個別医療への応用が期待されます。

検診部では、疫学・統計学の最新の方法論を駆使して、正しくデザインされた疫学研究により、各種検診や予防的介入の有効性・有用性を科学的に証明することも目指してまいります。そのために、健康関連情報を統合した医療情報システムを構築し、より質の高い疾病管理のモデルの開発を行います。

東大病院は、従来型の検診・人間ドック施設とは一線を画する、新しい時代の検診部を立ち上げ、より質の高い予防医学・健康増進医学を推進し、皆様方の健康増進に寄与したいと考えております。

【注釈】

※ 東京大学医学部附属病院 病院長 永井 良三 〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1

<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/>

※ 中央診療棟 2 は、9 月より順次開設する予定です。中央診療棟 2 には、検査部、手術室、救急外来などの中央診療部門および 22 世紀医療センターなどが設置されます。

《取材に関するお問合せ先》

東京大学医学部附属病院 広報企画部

電話：03-5800-9188(直通) E-mail:pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp

《本件に関するお問合せ先》

東京大学医学部附属病院 企画経営部 担当：康永(助手)、塩崎(経営戦略課長)

電話：03-5800-8716(直通) E-mail:kikakushitsu@adm.h.u-tokyo.ac.jp
